

図画工作科における用具の安全指導のためのICT活用の類型化

松橋 尚子*¹ 堀田 龍也*²

<概要>

危険を伴う用具を扱う図画工作科の学習において、児童が主体的に活動し表現活動を十分に行うことのできる学習環境を保障するためには、用具の安全指導の徹底が必要である。しかし、安全指導を徹底させるためには時間がかかり、肝心な表現活動の時間が奪われてしまう現状がある。そこで、安全指導の短時間での徹底を目的として、図画工作科でのICT活用に取り組んできた。本研究では、図画工作科の学習で用いる危険性の高い用具類について、その指導場面におけるICT活用の有効性を実践を通して整理した。

<キーワード>図画工作, 安全指導, ICT活用

1, はじめに

図画工作科においては、「主体的、創造的にものをつくりだす喜びを味わうようにすること」が求められている（文部科学省，1999）。

図画工作科における表現活動では、数多くの用具を扱う。用具の中には危険を伴うものもあるため、安全に関する指導を欠かすことができない。「今の子どもたちは、幼児期から遊びの経験が不足し、人とのかかわりが薄らいできており、自然や人とふれあい心を育てる教科の本質から重要な役割を担う。」（岐阜県総合教育センター）とあるように、遊びを通した造形体験の少ない現代の子どもたちには、刃物を始めとする用具に対する基礎知識が少なく、安全指導に多くの時間を取られてしまう傾向がある。

安全指導を短時間に徹底することにより、児童が主体的に活動し、つくりだす喜びを十分に味わうことができる授業が実現する。

2, 目的

図画工作科における用具の安全指導の短時間での徹底におけるICT活用が効果的な指導場面を抽出し類型化する。

3, 方法

ア、図画工作科における用具の安全指導の指導場面の抽出

- ・教科書（開隆堂出版）の題材をもとに、各学年で扱う用具を抽出する。
- ・用具を機能により分類する。
- ・用具を扱う指導場面の中から、安全指導が必要なものを抽出する。

- ・安全指導の観点を具体化する。用具の理解、用具の基本的技術の理解、運搬中の自他への安全配慮、など。

イ、ICT活用が効果的な場面の抽出

- ・安全指導の指導場面において、ICT活用が効果的な指導場面を抽出する。今回は用具の初期指導の場面に限定する。
- ・抽出されたICT活用が効果的な指導場面において、使用するICTと具体的な指導内容を書き出す。
- ・ICT活用による安全指導の効果について、これまでの指導経験から評価する。

ウ、用具の安全指導におけるICT活用の類型化

- ・用具の安全指導の内容によって類型化する。

4, 結果

ア、16種類の用具がリストアップされ（表1）、切断用工具、接合用工具、研磨用工具などにカテゴライズできた。用具の安全指導の指導場面を抽出し、安全指導の観点を具体化した結果、16種類の用具に対して合計147場面が抽出された。これらの指導場面には、扱い方の演示や保管方法の解説などの観点が多く見られた。

イ、用具の安全指導の指導場面のうち、ICT活用が効果的な場面を抽出し、具体的な活用例を書き出した結果、合計81例が抽出された。これらの活用例には、小さな用具における操作技術の演示や保管方法の解説などの場面が多く見られた。

ウ、用具の安全指導におけるICT活用を類型化した（表2）。その結果、用具の性質と操作を教えるために実物投影機を用いる活用、危険な

*1 MATSUHASHI Hisako : 世田谷区立砧小学校

e-mail= matsuyan@activemail.jp

*2 HORITA Tatsuya : メディア教育開発センター

e-mail= horita@horitan.net

